

家庭教育支援事業

自治体名

岩手県陸前高田市

学校数

小学校 8校 中学校4校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

東日本大震災による津波で、市街地の大部分が被災し、多くの児童が学区内外の仮設住宅等から通学している。社会基盤の多くが復旧されていない他、市の職員も多くが被災し、人的資源も不足している。仮設住宅への入居世帯は、1,964世帯である。

＜取組名＞ 『働く親のための教室・子育て講座・家庭教育学級・乳幼児学級』

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
				市内小中学校、保育所、保育園、地区公民館

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

＜取組の内容を具体的に記載＞

事業概要: 子育てへの理解や家庭教育の充実を図るため、次の講座を開催する。

1 子育て講座

子育てへの理解や家庭教育の充実を図ることを目的とし、就学児童の保護者を対象に市内8小学校にて講演会を開催する。

2 家庭教育学級

幼児期から少年期までの子どもの健全育成のため、家庭における教育力の向上を図ることを目的とし、幼児や小・中学校生の保護者を対象に市内12保育所(園)等及び12小・中学校にて運営委員会を組織し、各学級2～3回程度学習会を開催する。

3 乳幼児学級

乳幼児期の子どもを持つ親の悩み、不安の解決に役立て、心身ともに健全な子を育てるための学習機会をつくることを目的とし、乳幼児の保護者を対象に地区公民館等にて11回程度学習会(託児付)を開催する。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

震災により家庭環境が一変し、改めて家庭学習や基本的な生活習慣等についての家庭教育、保護者同士の情報交換、交流の場が必要となっている。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・震災の被害並びに復興工事に伴う道路交通量の増加もあり、安全に遊べる場所が身近になくなってしまったことから、子どもたちが安全に遊ぶことができ、保護者同士も交流できる場が欲しい(運動不足、肥満傾向にある)。
- ・虫歯予防の啓蒙(避難生活の影響もあり、子どもの虫歯罹患率が県内ワースト1位)

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・保育所(園)、小・中学校 ～ 活動内容の依頼、協力・連携、活動場所の提供、保護者への周知
- ・父母の会、PTA ～ 活動内容の依頼、協力・連携、活動場所の提供、保護者への周知
- ・子育て支援センター ～ 活動内容の依頼、協力・連携、活動場所の提供
- ・教育支援団体 ～ 活動内容の依頼、協力・連携、活動場所の提供
- ・地区公民館 ～ 協力・連携、活動場所の提供
- ・市教育委員会 ～ 実施主体

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・事業説明会を設け、協力・連携を図った。
- ・父母の会やPTAとの協力・連携を図った。
- ・広報誌や新聞、ポスター等による周知。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

震災により環境が一変し、子育て中の親子への心身の影響は大きく、虫歯や肥満傾向が見られ、安全な遊び場に代わり携帯ゲーム機が顕著に見られる等の課題がある中、本事業により、中断していた家庭教育の充実を図る機会を学校などと協力し再開することができた。

具体的には、

- ・市内歯科医院の協力もあり、各地区で虫歯予防を実習する機会が増加した。
- ・安心して親子で体を動かしたり、芸術鑑賞をすることができる機会が増加した。
- ・学校、家庭、地域が連携して取り組むことにより保護者同士の交流、情報交換が促進された。
- ・学校行事の場を活用して開催することにより、多くの保護者に対して学習機会が提供された。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

家庭教育の充実を図り、保護者同士の情報交換、交流の場となる機会を下記の通り設けることができた。

1. 子育て講座
H24年度:8回 121名、H25年度:10回 152名、H26年度:8回 117名
2. 家庭教育学級(働く親のための講座を含む)
H24年度:7回 225名、H25年度:56回 3,549名、H26年度:55回 3,301名
3. 乳幼児学級
H25年度:11回 106名、H26年度:11回 304名

◇課題や今後の展望

社会教育施設、総合体育館、公園等が整備されるのは、早くても平成28年以降の予定であり、安心して子育てできる場所や学習する機会を提供する必要がある。